

二紀元節粉碎譯演集

廿八

講演の中では宗教家・丸山照雄氏より、右翼的再編り進む宗教界の内実暴露と天皇制の本質が述べら

侵略一抑圧攻撃を粉碎する斗りを堅持させていく意志一敵を夷ち取
り、朱雀は終了していった。

明大夜間部に学ぶ仲間達、この会
「」受講者のみなさん。

行動の重要性を述べられた。

小た。沖縄人・史家新里金福氏は、沖縄斗争の「アヒト」の中へ生きた伊波普猷の生き方に感銘を當て

某会終ア后 明大衣間部の学友達
と感想会を持ち、その中で天皇・民
族・考古学問題について語り合ひてゆく

二三〇

1974.4.10

お可の力の方よし。今東洋の其體
が在べうべし。現在日本帝国主義一
天皇」、「かみのイド大ロギー攻勢が激
しく、「靖國神社」「法皇」「陛下」
「法皇等の策動と侵略一抑止攻
撃を進々と進めうめている。在日
他民族人民、沖縄人民への差別一
抑止が強化されており、これと沖
決しうる斗争の深化と交際共、同

明大兎戦線は夜間部学生としての立場を明かにし、沖縄斗争・明大學ヒューマンズ・阻止斗争を斗い抜く中で、自らの特性の克服と夜間部學生として誇りを獲得し、夜間部統廃合政策を粉碎し、天皇一民族一考古学斗争を徹底して勝ちを挙げた。

全都学生共同行
明大夜向部に学ぶ学友諸君、二
年間の活動より、二年間にわたり
共同行動の斗しと共に進めてきた
学友と共に、全都学生共同行動の
春合宿を立ち取つた事を報告して
ゆきたい。

全體學生共同行動卷首報生

對
卷
台
宿
報
告

地裁小野

追擊古加

紅彈

19
裁判
夜向部に学ぶ全ての皆
さん。
11・19(62年6月1日)
争川金子教授慶應説明会
(食介入斗争)裁判、争川は
一月30日才8回公判。3
月5日才9回公判が開け
れました。

本裁判斗争は、尊ヒ斗
争の正当性を争ひ抜き、全
ての労働者、市民にその
眞實を伝え、同時に田原
一國家権力の過疎を糾弾
し彼らを法廷一場面を通
じて追及していくものと
に展開されました。

オガ公判では、まず
くり返し特別弁護人とし
て福井明大助教授を要求
してこキリました。「被告
」一弁護人ふうは、本公司
の争点が皆上回體と大
勢の労働者にあり、教
授会内部でそれを裏づけ
批判し当田も影響にいた

福井氏こそ「弁護士では補えない専門知識を有する」者とされる特別弁護人に適任であることを述べよう。小野裁判長は、いふる全く明瞭な根柢を一切くつねえす理由を示せず、「該證言では認めたうれり」を探り返すので、即ち下してきたのです。結局田中弁護人が福井先生の「上告書」代読をうち取つてしまひました。

裁判側も頭隠して、山中検事は何と思つたのか、被告の逮捕の建捕かう始め「これは説明する事欠いてある」と居直る始末でした。予断と偏見の持ち込みを含むた現刑事訴訟法の原則さえ忘れた、う愚舉は当然のやう却下されました。

検事實際は學に値上げの内容と肯定に一切触れず何とか「犯罪者」に仕立てあげようとする偏見と矮少に満ちたものでした。

さて回公诉では、検事側冒陳に對する未承認が行なれ、山中検事は全てに答える意志がないと道述を画策しつけ、更なる追

及の前に、結局ほとんど終明出来
た。「共謀の方は被告の方をよく
知つてゐるはずだ」と開き直りに
終始して来たのです。

公判終了直前、小野裁判長は一
特弁は許可しよつと因つたが被告
一傍聴人の様子から、特弁が加わ
る(2)面より續く)

(2)東洋主義と大衆路線の堅持を主
つて起訴しよう。⑤相互の独自の
主張を残す、相互批判、自己批判
の精神を文部省共同行動で勘定させ
よう。⑥夜間部学生、女子学生の
斗争を支持し、差別、歧視と斗争
を戒め、以上の四点の基準を踏まえ
て、各大学から分科行動報告書をな
げた。中青同公判斗争に参加してい
る者々より四月二日より再開され
れる控訴審斗争の内容とが年次選
考や持つ憲法が報告された。又當
内保守派外体制崩壊を斗争抜けて
いる者々からは学生相談室の持つ
本質と J.P.E.-M.P.E. 千葉ノック方
案山斗争、片看守、名々で斗争しま
した。その他学ヒキ争、障害者解放
斗争、水俣病斗争、女性解放斗争
した活動報告がなされた。その他

のものは多くない」といふ本音を甘利のうちに開示してしまいました。

二、内戦抗争は多くの夜間部生の集団と結集を生み、特に「中村君を支援する会(講)」の運動は毎回部中の機関を挙げて抗争全体を支えていく質をもつて来ています(4月)。

文科系に就りて自発会「ナーリル女性、私達にとっての保守派」、津繩一人、唐人、民族問題、四分野で集中して討議が持たれました。以上二の報告と討論を踏まえ、今年の方針討論会もこれ、井春風の手の下で一六日参院選といつも一才にあける権力斗争の懸念まりと同様に又、田中一太郎に手取り足踏一柳庄一、吉野、高嶋、政宗が悉々じ進行してゐる現状、我々の任務は重大なものである事が確認され、斗の内容を直ちの生活類縁と照合し裏に変え切る事が向り込んでおり、今后の我々の斗いを各大学に根ざしたものにしてゆく事を意念一致して、各自宿を終えていた。

全ての学友諸君

中村君を支拂する会（洋）の
発印をみて、早や三ヶ月たとうと
していき。現在、公判もやつ回

つい、たゞ個性を持つてゆく女、
私達会員が、そして、全學生に向
ひ立てる中なか、考えてゆくねほ

かりです。どんな事をつけてやく
次、其に注目してしまったもので
す。

四月五日
事又行シニル
ノリナム四公主西
十二時田比翁小公園新築

を終り、検事側立証段階に入り、
この山鶯をむかえようとしており
、情勢は一段ときひしるものにな
り、ときにはと高まる。されば、

支援する会の活動を担う

する会の活動を提

体制、学籍、公判報告を行ない、
機関誌「葵カ」を発行し、中村君
との、そして会員相互との、そし
ては毒のために時間をつけねばい
II部学生としての私達の相互の交
渉を深めんとしてさせました。その
口から、「葵」を發行するに至るのを
二

会のあり方、なども語られ、内容
を深めうれとさせました。
「被選」といふ機会としての私選
との關係の中から、11・14斗争の
意味、学費一現在の大学院、そして
で、学生としての私選、とくに、
Ⅱ部学生としての位置付け等、西
康としよりも、いつも、回りで
やへーと冬大切であつて、想ひあ

今後、中村君との關係性をかう
めて、一の、マニフェストの今、久、ど

(ノ面より)『闘いの方丘』
私達の敵は、この貧困と分断・差別の時代に勝ち抜いていく具体的のあり方を、その支配なら生じる矛盾と闘う誇りある夜間部隊生としたものの立場を堅持し、批判・自己批判の徹底化として提起してきた。一人一人の違いを違いとして認めること、相手の現実を知り自らの現実を明らかにすることこそが分断をほね遁す共感に満ちた階級的団結を導く。ところがそれは口先だけではできない。日常的な交流と共通の敵、個別への敵に対する

うのを自ら開いたへと前進されなければならぬ。この夜、圓野勤務官室席にあつた教練は、其の後も、英に即ちうるばない。

(3) 面より練る。いふと考えます。勿論、國外の圓公判は、即ち當田尊義當局と連絡して現場の指揮を取つた中國警官部長古賀が手渡します。

學ヒ値上げ実験から一切被蒙タリ。かう多様の学費をだて拂しフケモして來た。二年生、新入生の皆さん、こうではありませんか。

新人生を送る
新貴をまたにし
て、「二ふれ」や「物語祭行しきす。
。庄廟化に向け尊重していきす。
読者の皆さんとの二意見・批判・投
稿をお願いします。今後は贈呈物

通路先

萬葉集

（おどけ）計画していきます。ご支擧を。
それでいい。民衆人民の用いに假る。